

南米ボリビアで環境問題・社会問題の解決に貢献 現地法人を率いる本間賢人さんに聞く

聞き手: 広報部会

近年 SDGs など地球規模の問題解決への関心が世界的に高まっています。日本でもさまざまな分野で活動する人や組織が増えていますが、すでに数年前から日本を飛び出して、海外の社会問題・環境問題に取り組んでいる青年がいます。そのひとり、海外の現地で活躍中の本間賢人(よしひと)さんを紹介します。

——活動についていろいろ伺います。まず、どんな活動をされているんですか。

本間賢人(以下本間) 私は今、中南米現地法人 ProjectoYOSI の代表をしています。ProjectoYOSI は、中南米の持続的な発展・環境保全を目的として 2016 年に設立された団体で、持続的な観光・プロジェクト・人材育成を 3 つの柱として運営しています。

——具体的には。

本間 観光では、雇用の創出、賃金の向上、環境負荷の軽減に取り組んでいます。プロジェクトでは、中南米各地に存在する社会課題や環境問題に対して、現地の教育機関や企業と連携して、改善に向けた企画立案と実施を行っています。また人材育成では、プロジェクトを継続的に行うために、日本と対象国、両国間の関係発展を目指して海外で活躍できる人材を育成しています。

——本間さんがこのような活動を始めたそもそものきっかけは何ですか。

本間 市立習志野高校時代の 3 年間、テニス部で練習に明け暮れていました。そして 3 年夏、高校総体が終わって引退したあと、さて将来何をするかと考えました。そして漠然と野外自然系の仕事を調べていたときに出会ったのが南米でした。

最初は樹木医になりたかったような気がします。そこから森といえばアマゾン、ベネズ



エラに。ベネズエラ・ギアナ高地の写真を見たとき「これだ」と思ったんです。そこで調べたら JICA でベネズエラでの取組みをやっていました。それから JICA の説明会に参加して、いろいろな職員と話をする中で、中南米の環境保全事業で現地の人と一緒に働いてくれる姿がとても輝いて見え、私も将来は南米の自然の中で働こうと決意しました。

その後東京農業大学に進学して、大学 2 年の時に国際 NGO のボランティアとして初めて南米に渡りました。熱帯雲霧林保全やジェンダー問題に取り組んでみて、あらためて中南米で働くことの夢を確認しました。

——今はどんな活動をされていますか。

本間 現在、ProjectoYOSI の活動拠点であるボリビアで活動しています。

多民族国家ボリビア共和国は南米大陸の中央に位置していて、標高 3800m を超えるアンデス地域と緑が生い茂るアマゾン地域の、大きく 2 つに分けられます。私が活動しているのはアンデス地域にあたり、事実上の首都であるラパス（憲法上の首都はスクレ）やボリビアの一大観光地であるウユニ塩湖があります。

——そこではどんな問題に取り組んでいるのですか。



夕日のウユニ塩湖(上)とウユニ市のゴミ(下)

本間 ウユニ塩湖は天空の鏡と称される、訪れた人々の心を震わせるほどの美しい景観をもっています。しかし、その陰には環境汚染が進行していて、対策が遅れていました。ProjectoYOSI はその問題に対して、教育機関・現地企業と連携してプラスチックを石油に変えるリサイクル機械を利用した環境教育活動を行っています。またウユニ市のゴミの大半を占める食料廃棄物、プラごみなどを限りなくゼロにした観光事業を進めています。さらに、ProjectoYOSI はカウンターパートとして国立サンアンドレス大学（UMSA）と協定を締結していますが、そのUMSAと連携して、ごみゼロ運動や国際セミナーの開催、環境意識調査を行っています。プロジェクトの評価はUMSAが担当していて、論文にまとめた結果、住民たちの環境汚染に対する意識が改善されたことがわかり、活動の有効性が確認されました。

——その一方でご苦労されていることもありますか。

本間 思い返せばたくさんのトラブルがあっ

たような気がします。大変だったなと思うのは現地とのスケジュール調整です。ボリビアはよくデモが起こるので、道路封鎖は当たり前です。片道10時間バスに揺られて行ったのにデモで市役所が封鎖されていて、予定していた会議が全てなくなったこともありました。収束する気配がないので、また10時間かけて家に帰りました。今となってはいい思い出で、もう何が起きても驚かなくなりました。

——人材育成にも取り組んでいるとのことですが、どのような。

本間 日本とボリビア両国の人材育成プログラムとしてインターンシップの受け入れをしています。

UMSA と話し合いを重ねる中で、ボリビアでは文化交流・環境問題・日本語英語講師が不足していることがわかりました。この課題に対して、これまで7名の長期インターン（6ヵ月以上）と約40名の短期プログラム（1週間以内）を日本から受け入れました。これは双方の学生にとって有意義な時間となりました。長期インターンシップでは、英語クラス・日本語プライベートクラスの新設、文化交流イベント、JICA Bolivia の委託調査など、様々な分野で実績を残すことができました。UMSAからもよい評価をいただいている、引き続きこのプログラムを行ってほしいと言われています。また参加した日本人学生もこのプログラムをきっかけとして、より専門性を求めて大学院へ進学したり、青年海外協力隊へ参加したり、またJICAへ就職するなどそれぞれの夢に向かって進んでいます。

——これからのProjectoYOSIの目標はどんなことですか。

本間 現在コロナウィルスが猛威を奮っている中、ProjectoYOSIでは中南米との繋がりを活性化するために、オンラインでの国際交流（インターンシップ・プログラム）や小学生向けの南米講座（SDGsや自然・文化紹介）を行っています。引き続き中南米との関わりを強化し、よりよい社会へ向けて活動の幅を

広げていきたいと思っています。
 ——最後に本間さん自身が目指していること、またこれから社会参加をする若い人たちへのメッセージや、習志野市国際交流協会のみなさんに伝えたいことを聞かせてください。
本間 ボリビアで行っている観光・環境保全・教育の小さな循環を、モデルケースとして他の地域へ拡大・展開することが今後の夢です。熱帯雨林保全などこれまで行ってこなかった分野にも挑戦していきたいと思っています。中南米のジャングルはカカオやナッツなど農産物のほか、多様性に富んだ動植物の

宝庫なので、好奇心が付きることではなく、どんなことができるか楽しみでなりません。
 中南米にはまだまだ日本では知られていない魅力がたくさんあります。みなさんに少しでも興味をもってもらえたら嬉しく思います。
 また中南米や外国に心が惹かれたときは、直感の赴くままにさまざまなことにチャレンジして、飛び込んでみてください。そこには今までの価値観が変わるような、鮮やかな世界が待っていると思います。
 ——ますますのご活躍を祈ります。ありがとうございました。



ウユニ塩湖周辺ゴミ〇運動



ウユニ市小学校環境教育



ウユニ市小学校リサイクルプロジェクト



国際文化交流の推進



英語・日本語講師の派遣



スタディーツアー受け入れ